

二〇二三年度入学試験

試験問題

国語

注意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二、受験番号を解答用紙の三カ所に書き、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 三、問題は1から5までで、八ページにわたって印刷してあります。
なお、問題用紙のほかに別紙があり、表に別紙1、裏に別紙2が印刷されています。
- 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

1

次の①～⑧の傍線部分について、漢字は読みをひらがなで書き、ひらがなは漢字に直しなさい。

- ① 仕事を少人数で賄う。
- ② 地域の人と親睦を深める。
- ③ まぶしさに目を背ける。
- ④ 千載一遇のチャンスが到来する。
- ⑤ 柿が真っ赤にうれる。
- ⑥ まいぞうされた宝を探す。
- ⑦ 物事をしんけんに考える。
- ⑧ 春の日差しがふりそそぐ。

2

別紙1の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

問1 傍線部分(1)「透」は、総画数が十画の漢字である。次のア～エの行書で書かれた漢字をそれぞれ楷書で書いた場合、総画数が「透」と同じ十画になるものはどれか。適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア

イ

ウ

エ

捨 温 根 級

問2 文中の(1) (2) にあてはまる言葉として適当なものをそれぞれ次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

①

ア ぞっとする

イ ほっとする

ウ ざらっとする

エ うっとりする

②

ア ぐるりと

イ ぱちりと

ウ きらりと

エ ずしりと

問3 傍線部分(2)「ない」と同じ品詞のものはどれか。次のア～エから適当なものを一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 正しくない

イ 暑くない

ウ 情けない

エ 食べない

問4 傍線部分(3)「ため息を吐く」とあるが、その理由となるものを、本文中から六字で抜き出して書きなさい。

問5 傍線部分(4)「彼女の心は既に二人で抱いていたはずの夢から離れていたのかもしれない」について、千帆の心はどのように離れていたのか。希衣との違いを明らかにして、六十字以内で説明しなさい。

3

別紙2の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

問1 文中の(①) () (③) ()にあてはまる言葉として、最も適当なものをそれぞれ次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。
ただし、同じ番号の()には同じ記号が入ります。

ア 例えば イ ところで ウ だが エ なぜなら

問2 文中の A () C ()にあてはまる言葉を本文中から抜き出し、それぞれ書きなさい。

問3 傍線部分(1)「自分にとって無理めの課題を自分で設定し、それをクリアして喜びを感じる、という経験を日々続けることが大切なのだ」とあるが、なぜそのような経験を日々続けることが大切なのか、本文中の言葉を使い、七十字以内で書きなさい。

問4 傍線部分(2)「そのこと」とは何を指しているか。本文中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

問5 文中の《 》にあてはまる言葉として、適当なものを次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 付け焼き刃で
イ 石の上にも三年で
ウ 石橋をたたいて渡って
エ 白羽の矢を立てて

問6 本文についての説明として適切でないものはどれか。次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 前半で専門的な用語について説明し、後半では具体的な勉強法を提示している。
イ 提起した問題の答えを本文の半ばで述べた上で、根拠となる文献を引用し主張をまとめている。
ウ 筆者の主張を繰り返し述べることで強調し、最後は具体的な人物の例を挙げて説得力を持たせている。
エ 対象の読者を想定し、専門用語などを比較的平易な言葉で説明することで、読者の理解を促している。

4 次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

昔※丹後の国に、浦島といふもの侍りにその子に浦島太郎と申して、年の(1)よはひ二十四五の男有りけり。明け暮れ海の※うろくづをととりて、父母を養ひけるが、ある日の(2)つれづれに、※釣りをせんとて出でにけり。浦々島々、入江入江、至らぬところもなく、釣りをし、貝を拾ひ、※みるめを刈りなどしけるところに、※ゑしまが磯といふところにて、亀をひとつ釣り上げける。浦島太郎この亀に(3)いふやう、「なんぢ、生あるものの中にも(4)鶴は千年、亀は万年とて、命久しきものなり。たちまちここにて命を絶たんこと、(5)いたはしければ、※たすくるなり。常には(6)この恩をおもひだすべし」とて、この亀をもとの海に返しける。

(二御伽草子「より」)

注(※) 丹後の国||今の京都府の北部 うろくづ||魚の異称 釣りをせん||釣りをしよう みるめ||海藻の一種
ゑしまが磯||地名 たすくる||助ける

問1 傍線部分(1)「よはひ」(3)「いふやう」を現代かなづかいに改めなさい。

問2 浦島太郎はどのような仕事をしていたか。それがわかる部分を本文中から十字以内で抜き出して書きなさい。

問3 傍線部分(2)「つれづれ」(5)「いたはしければ」の本文中での意味をそれぞれ次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

(2) 「つれづれ」

ア のんびりくつろいだ時

イ なんとなく寂しい時

ウ 気が向いた時

エ することがなく退屈な時

(5) 「いたはしければ」

ア 感心できないので

イ 苦しそうなので

ウ かわいそうなので

エ 納得できないので

問4 傍線部分(4)「鶴は千年、亀は万年」について書かれた次の文の()に入る言葉を漢字二字で書きなさい。

この言葉は、中国の伝説で鶴と亀が()のシンボルであることからできたものです。

問5 傍線部分(6)「この恩」とありますが、これは誰から受けた「恩」ですか。次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 浦島太郎

イ 父母

ウ みるめ

エ 亀

5 次の【話し合いの様子】は、中学生のあかねさんがクラスの友人とペットボトルやプラスチックのリサイクルについて話し合ったときの様子の一部である。【資料1】はペットボトルのリサイクル率の推移に関するもので、【資料2】は廃プラスチックの有効利用率の推移に関するものである。これらを読んで、あとの各問いに答えなさい。

【話し合いの様子】

あかねさん 最近テレビでSDGsという言葉をよく聞くよね。

せいらさん

学校の授業でも聞いたことあるね。「持続可能な開発目標」の略だったかな。身近なところではペットボトルのリサイクルがあるよね。でも実際、どれくらいリサイクルされているのかな。

あかねさん 【資料1】を見てみると、2019年度のリサイクル率は85・8%になっているよ。2010年と比較すると①ことがわかるね。

おうかさん リサイクル率は①けれど、海外再資源化量という項目が②して、国内再資源化量は③しているね。ペットボトルのリサイクルについては分かったけど、プラスチック全体では、国内でどのような再利用のされ方をしているのかな。

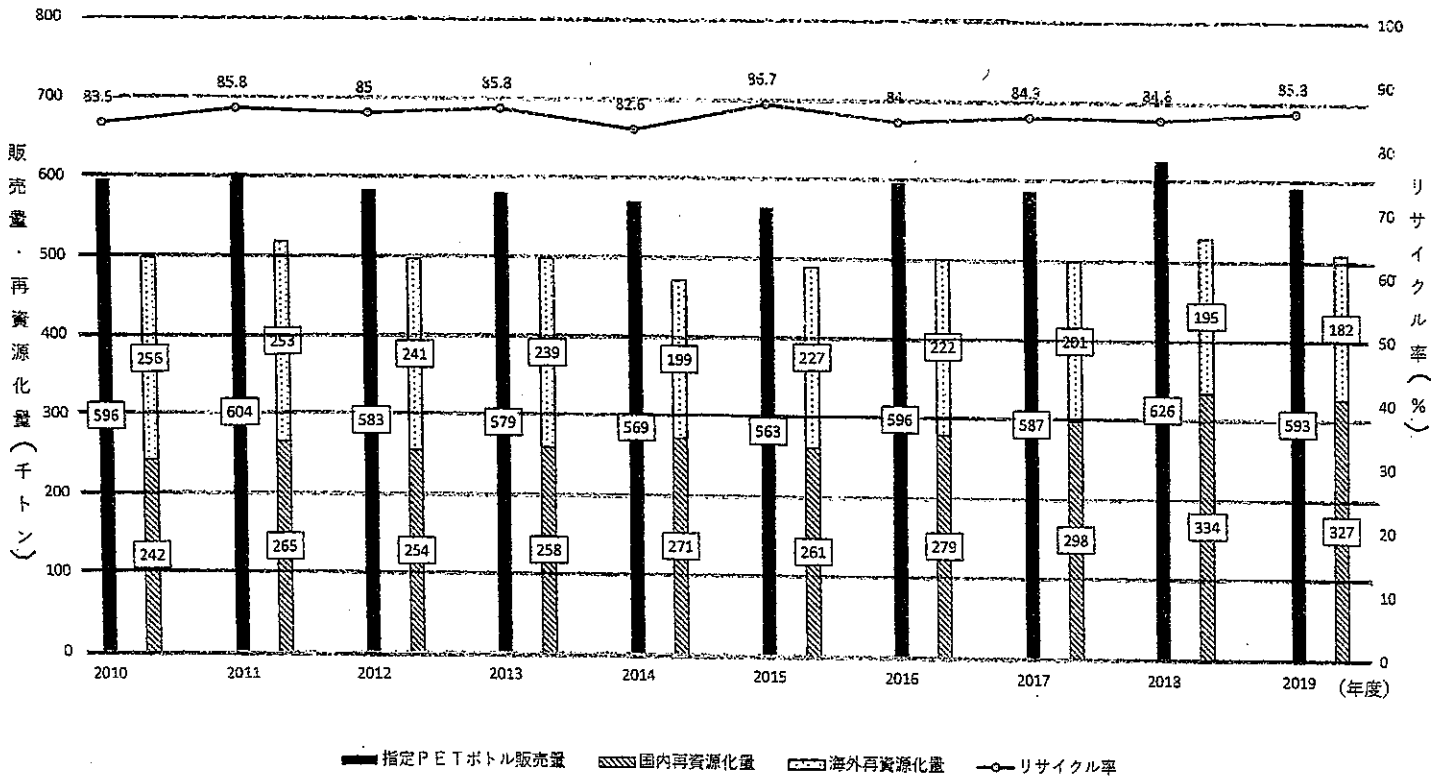
あかねさん 【資料2】を見てみると、2000年から2019年まで通して廃プラスチックの有効利用は、プラスチックとして再生利用

するマテリアルリサイクルと、ガス化や油化などをして利用するケミカルリサイクル、また固形燃料などとして利用するサーマルリサイクルの三種類に分けられているんだね。

せいらさん マテリアルリサイクルが一番多いと思っていたのだけど、実際には二番目なんだね。一番多いのがサーマルリサイクルというのには意外だな。

おうかさん プラスチックは様々な形になって再利用されて便利に使われているんだね。私たちはプラスチックの長所をいかし、無駄使いをせず、長くうまく付き合っていく必要があるね。

【資料1】 ペットボトルのリサイクル率の推移



参考：PETボトルリサイクル推進協議会
統計データ 「リサイクル率の算出」

【資料2】 廃プラスチックの有効利用率の推移

年		2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
廃プラスチック排出量		397	416	398	461	473	406	405	394	388	412	445	452	429	440	426	415	499	493	489	450
有効利用量	(④)	139	147	152	164	181	185	204	213	214	200	217	212	204	203	199	205	206	211	208	-
	(⑤)	10	21	25	33	30	29	28	29	25	32	42	36	38	30	34	173	174	177	188	186
	(⑥)	312	345	337	344	364	368	457	449	494	456	465	496	502	535	534	30	29	27	26	27
	合計	461	513	516	541	575	582	688	692	733	689	723	744	744	767	768	498	492	506	507	513
未利用量	単純焼却量	238	220	202	193	174	164	146	137	113	102	97	102	96	98	91	763	759	775	750	-
	埋立量	298	286	274	267	266	260	168	167	152	123	125	105	89	74	67	87	80	74	71	70
	合計	536	505	476	460	440	424	315	304	265	224	221	207	185	173	158	850	839	849	821	850
有効利用率 (%)		46	50	52	54	57	58	69	69	73	75	77	78	80	82	83	83	84	86	84	125

注) マテリアルリサイクル量：再生利用量
ケミカルリサイクル量：高炉・コークス炉原料、ガス化、油化利用量
サーマルリサイクル量：固形燃料/セメント原・燃料、発電焼却、熟利用焼却利用量
有効利用率 (%) = (有効利用量 / 廃プラスチック排出量) × 100
※2015年以降の数値：(上段)公表済みのフロー図記載値、(下段)最新データを適用して再計算した値
・なお下段の数値の計算にあたって、ガス化(化学原料利用)はケミカルリサイクルに、ガス化(燃料利用)はサーマルリサイクルに含めた。

出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会

「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況 マテリアルフロー図」

問1 【話し合いの様子】の中の①に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア 全く同じである

イ あまり変化していない

ウ 大きく増加している

エ 大きく減少している

問2 【話し合いの様子】の中の②・③に入る言葉をそれぞれ漢字二字で書きなさい。

問3 【資料2】の表の中の(④)～(⑥)に入る言葉をそれぞれ次のア～ウから一つ選び、その記号を書きなさい。

ア サーマルリサイクル量

イ マテリアルリサイクル量

ウ ケミカルリサイクル量

問4 【話し合いの様子】の中の二重傍線部分「長くうまく付き合っていく必要がある」について、どのような取り組みが必要だと考えられるか。あなたの考えを、次の〔注意〕にしたがって書きなさい。

〔注意〕① 題名は書かずに本文から書き出しなさい。

② 「ペットボトルのリサイクル」以外の具体的な取り組みを一つ取り挙げ、あなたの意見を明確にして書きなさい。

③ 原稿用紙の正しい使い方にしたが、全体を百六十字以上二百字以内にまとめなさい。

これで問題は終わりです。

別紙1 (本文は、設問の都合で省略した箇所があります。)

(1) 透き通る水面は、遙か頭上に存在した。もがく指先が捉える、重苦しい感覚。口からこぼれる二酸化炭素は気泡となって、遠い彼方へと逃げていく。足に絡まる水草がふやけた皮膚を(①)ほどに優しく撫でた。体が沈む。下へ、下へ。必死に腕を動かしても、自分はもうどこへも行け(②)ない。怖い。恐怖が心臓を竦ませた。眼前に広がる世界は、目が眩むような真つ白な闇だ。

「……」
目が覚めた瞬間、背中に鈍い衝撃が走った。何が起こったか分からず、希衣は(②)大きく瞬きする。肺にのしかかった腕が重い。鼻孔を膨らませて朝日を吸い込めば、大して起伏のない胸が音もなく上下した。朝だ、と硬直していた脳味噌がそこでようやく動き始める。ベッドから降り落ちた上半身に、辛うじて足へ引つかかっている掛布団。どうやら昨晩の自分も随分と寝相が悪かったようだ。

身を起こし、筋肉をほぐすようにゆっくりと伸びをする。視線を上げると、壁には多くの賞状が重なるようにして飾られていた。あれもこれも、全て大会でもらったものだ。年季の入った学習机の上に置かれた写真立て。そこには、赤く腫れたままの目で笑顔を作る二人組が写っている。二年前の、自分と千帆だ。幼さの残る二人が手にしている賞状には、『全国中学生カヌー大会』とハッキリとした字体で記されている。その背後に写り込んだ一人の人物を、希衣は今まで一度たりとも忘れたことはない。長い黒髪に、猫を思わせる釣り目勝ちな上がり目。百年に一度の逸材と謳われる、天才少女。

「……利根蘭子」
無意識の呟きが漏れたのと、スマートフォンのお知らせが鳴ったのは同時だった。画面に表示されたメッセージに、希衣は思わず顔をしかめる。思考のタイミングが重なるのは、長年一緒にいることの恩恵か、はたまた弊害か。

『利根さん、今年はシングルに絞るんだって』
短い文章は、希衣の唯一の相棒から送られてきたものだった。

二年一組二十一番、鶴見希衣。壁に張られた名簿表には、自分の新しい学年が印刷されていた。ながとろ高校に入り、既に一年の月日が経った。卒業までに残された時間はたった二年間しかない。瞼を閉じ、希衣は深く息を吐き出す。自分は何になりたいのか、そして何になれるのか。その答えを、希衣はまだ見つけられていなかった。

「おはよう」
教室の扉をくぐり、千帆がこちらに笑いかける。頬杖をついて物思いにふけていた希衣は、姿勢を変えぬまま口端だけを釣り上げた。

「おはよ。それ、農園部のやつ？」

それ、と指さしたのは、千帆が両腕に抱えていた透明な花瓶だ。挿し込まれた数本のチューリップは、どれもがつぼみのままだった。柔らかな花瓶の黄色に、スラリと伸びる葉の深緑がよく映える。

「うん、綺麗でしょ。花壇の改装で処分しなきゃいけないって言うからもらって来たの」

「そっこの部活も楽しそうだね。この前も収穫してたし、春キャベツ」

「あれは美味しかったよー。希衣も掛け持ちしたらいいのに」

笑いながら、千帆は隅にある棚へと花瓶を置いた。透明な水面が、日差しを吸い込んで煌めいている。

「いいよ、私は。カヌー部だけで精一杯」

「部員も増えたしね」

濡れた手をハンカチで拭い、千帆は希衣の机に浅く腰掛ける。希衣は肩を疎めると、机の中から透明なクリアファイルを取り出した。入部届と印刷された文字の下には、それぞれの名前が書かれている。黒部舞奈と湧別恵梨香、どちらも今年入学したの一年生だ。

「このまま舞奈ちゃんが上手くなったら、※フオアで大会出られるかもね。最初に部活を作った時にはこんな風になるって思ってもみなかったなあ。希衣と私の二人だけで、三年間が終わっちゃう気がしてたから」

「私はそれでも良かったけど」

「そんなこと言って、本当は希衣だって嬉しいんでしょ？ 四人で頑張

ったら、きつといい思い出になるよ」

「思い出、ね」

チクリとした痛みが胸に刺さった。こちらの心境など想像も出来ないのだろう、千帆はへらへらと笑いながら足先を揺らしている。別に、内心を察して欲しいなんて情けないことを言うつもりはないけれど。むくりと湧き上がった思考は、随分と言いつつ訳めいていた。それを振り払おうと、希衣は強引に話題を変えよう。

「それにしてもさ、おかしいと思わない？」

「おかしいって何が？」

「湧別さんのこと。あの動き、どう考えてもどっかのクラブに入ってたでしょ」

最初に彼女を見た時、恵まれていると思った。一七〇を超える長身に、筋肉に覆われた脚。練習服の上からは細身なことしか分からなかったが、きつとその布の下には鍛え抜かれた体軀が潜んでいるに違いない。

頬に手を添え、千帆は小さく首を傾げた。

「確かに、舞奈ちゃんは完全な初心者だったけど、恵梨香ちゃんの方は初めからスイスイ漕いでたもんね」

「でも湧別恵梨香なんて名前、これまで大会で聞いたことなくない？前からやってたとしたら、私が知らないわけじゃないのに。大会の参加者リストには毎回目を通してるし」

「関東じゃないとこから来たんじゃない？ 関東のメンバーは大会で会うから顔見知りも多いけど、さすがに全国規模だと希衣でも把握できてない選手もいるだろうから」

「ない。本人が寄居にずっと住んでたって言ってた」

「じゃ、大会に出るレベルに満たない選手だったとか。いるじゃん、一年で一気に急成長する人。そういうタイプだったんじゃないの？」

「それにしたって指導を受けないと無理でしょ。独学でカヌースプリントってありえる？ 大体、乗る舟はどうすんの。競技用の舟に乗る機会なんて限られてるし」

(中略)

希衣の指摘に、千帆は思案げに自身の唇を軽く指で叩いた。

「こらへんでカヌーやってる子はみんな、ササウラカヌークラブに通ってたからねえ。寄居に住んでてカヌーを習うとしたら、場所は限られてるはずだけど」

「でもクラブにあんな子いなかったじゃん。謎すぎる」

「まあまあ、そこまで悩まなくていいんじゃない？ ほら、佐々浦先生も言ってたし。余計なことを考えず、ただひたすら『より速く、より強く』なれって」

千帆が口にした言葉は、ササウラカヌークラブのスローガンだった。希衣も千帆も小学三年生から入会し、そのままカヌーを続けるに至っている。クラブ自体は指導者の引退に合わせ、二年前に閉鎖してしまったが。

「佐々浦先生が今もいたら、黒部さんの指導をお願いできるのに」

こめかみを押さえ、希衣は(3)ため息を吐く。指導者の不在は、ながとろ高校カヌー部の抱える致命的な問題だ。檜原は顧問だが、運動経験はほぼ無いに等しい。

「今はお孫さんと北海道に住んでるんでしょう？ 年賀状来てたよ」

「北海道は遠い。遠すぎる」

「まあ、指導者がいなくなっちゃって楽しければいいんじゃないかな。私としては、カヌーをやる子がこの学校にちよつとでも増えたっただけで嬉しいよ」

柔らかな声で告げられた台詞は、きつと千帆の本心だ。ながとろ高校を進学先に選んだあの日、(4)彼女の心は既に二人で抱いていたはずの夢から離れていたのかもしれない。

千帆から視線を外し、希衣は花瓶に閉じ込められたチューリップを一瞥する。より速く、より強く。舌触りの良い言葉は、口にするだけなら容易かった。

(武田綾乃著「君と漕ぐ」ながとろ高校カヌー部より)

注(※) フオア：四人で参加するカヌーの種目

「自分に無理めの課題」を設定してみよう

「ドーパミン」という物質が脳の中にある。これは、何か嬉しい^{うれ}ことがあったときに出る物質だ。ドーパミンの分泌量が多ければ多いほど、人間は大きな快感と喜びを感じる^{感じる}ことがわかっている。

脳をうまく使うには、ドーパミンをよく出してあげることが必要だ。それでこのドーパミンは、少し自分には無理かな、と思うくらいのレベルのことに挑戦して、それをクリアできたときに、いちばんよく出る。今思うと、※和仁陽がやっていたのはまさにそれだし、※中澤佑一も常にそうしていたのだろう。実は僕自身もそうだった。中学も高校も、入学したてのときはのんびりしていたけれど、いざ発奮して勉強したら、その結果が出て達成感があった。すると、勉強することが嬉しくなる。さらに成果が出る。嬉しいからまた勉強する。そのサイクルを延々と繰り返すようになった。

熱中する対象は勉強でも、スポーツでも、仕事でも、同じことだ。ポイントはただ一つ。「自分で自分に無理めの課題を設定してそれを超える」。

なぜ自分で課題を設定することが大切なのか。親や先生は、よかれと思って「あれやりなさい、これやりなさい」と言う。(①)、そうやって押し付けられた課題は、自分の今の実力に合った難易度かどうかかわからない。それがわかるのは自分だけだから、自分で自分の課題を設定するしかない。自分にとって、今全力で取り組んだらやっつとできるくらいの課題とは何か。それを自分で設定してクリアすると、ドーパミンがいちばんよく出て、快感が大きい。

少し脳の仕組みの話をしよう。人間の脳はドーパミンが分泌されたとき、どんな行動をとったかきちんと覚えていて、ことあるごとにその快感を再現しようとする。そして、もつと効率的にドーパミンを分泌させて快感を得ようとするため、脳の中では「ニューロン」と呼ばれる神経細胞がつなぎかわり、「シナプス」という神経回路のネットワークが新しくできあがる。だから、快感を生み出す行動は「クセ」になって、自動的に繰り返すようになる。そのとき、少し無理めの課題を自分に課して、失敗を繰り返しながらもそれをクリアしていくことで、脳の中に強いシナプスのネットワークがかたちづくられ、やがてその行動が上達していく。これが「強化学習」と呼ばれるメカニズムだ。

ゲームに熱中して快感を得ているときも、**A**が出て、**B**がつなぎかわり、新しい**C**ができあがっている。だからクセになって何回も繰り返し、結果的にスキルアップする。これもまさに強化学習にほかならない。その対象はゲームでも勉強でもスポーツでも、まったく同じこと。

生まれつき英語が苦手、数学が苦手という人はいない。数学の勉強をしてドーパミンが出ると、数学の問題を解く神経回路のネットワークが強化される。英語の勉強をしてドーパミンが出ると、英語の問題を解く神経回路のネットワークが強化される。こうした強化学習のサイクルを、いかにたくさん回すか。それが「脳をうまく使いこなす」コツだ。

生まれつき頭のいい人も、頭の悪い人もいない。「頭がいい」とは「努力の仕方を知っている」ことだと、先ほど述べた。それを脳科学の言葉で言い換えると「強化学習のサイクルをたくさん回す」ことになる。

そのためには、(1)自分にとって無理めの課題を自分で設定し、それをクリアして喜びを感じる、という経験を日々続けることが大切なのだ。

課題をクリアするには？ おすすめの勉強法

自分で自分に課題を設定するといっても、具体的にはどうすればいいのか。おすすめの方法がある。「タイムプレッシャー法」と呼んでいるものだ。

簡単にいうと、少し無理めの制限時間を設ける。(②)制限時間六〇分と書いてある練習問題があったら、とりあえずそれは無視。自分で制限時間を設定する。(②)五〇分。そしてやってみる。できなかったら、五五分とか、少し緩めに目標を設定し直して、もう一度チャレンジ。できたとしても、それで満足しない。今度は五分短くして、五〇分にチャレンジしてみる。

そうやって徐々に制限時間を短くして、自分で自分のハードルを上げていく。それを超えていくたびに、脳のドーパミンの分泌が促され、次はもつと短時間で解こうと努力するようになる。こうして身に付くのは高い集中力だ。

くれぐれも言うけれど、他人に強制されて制限時間を設けるのではダメ。あくまでも自分で自分に設定する。それでこそ達成したときの快感が大きく、強化学習のサイクルが回る。イヤイヤやらされると、やる気が出ないから、当たり前だけれど喜びも快感もない。だからドーパミンも出ない。ドーパミンが出ないから、やっても楽しくない。どんなにがんばっても、苦痛でしかない。

繰り返すが、大切なのはドーパミンによる強化学習のサイクルを回すことだ。この回路さえ回り始めれば、あとは雪だるま式に脳が強化されてくる。

もう一つ大切なことがある。それは絶対に「他人と比較しない」こと。「あの人と比べて自分はダメだなあ……」。そんな劣等感こそ勉強の最大の敵。「勉強ができない」と思っている人の大半は、模試の判定が悪いとか偏差値が低いとか、他人と比較してそう思っている。ドーパミンが出るのは「自分にとっての進歩」があったとき。「誰かと比べて優れていた」ときではない。

自分の中の課題をクリアするという気持ちだけを見つめてほしい。他人がどうであっても、そんなことは関係ない。自分が少しでも進歩していたら、それでいい。どんなに遅くても、着実に進歩していたらドーパミンは出る。

いつも他人と比較して劣等感を抱いていると、(2)そのことをだんだん見ようとしなくなる。避けるようになる。「どうせダメだから……」と、自分が勉強していないことも見えなくなる。試験のときだけ《勉強して、赤点だけはとらないように、と自分で自分をごまかす。そしてどんだん悪循環に陥っていく。「強化学習」のサイクルとまったく逆のサイクルが回ってしまうのだ。

優れたアスリートは他人と比較しない。一〇〇mを何秒で走れるかは自分の問題であって、他人が何秒で走っているようが、そんなことは眼中にない。「プロフェッショナル仕事の流儀」に出てもらったイチローもそうだった。首位打者争いなどに彼は興味ない。(③)、他の選手の打率なんてコントロールできるわけがないから。自分がコントロールできることだけを見つめていればいい。

(桐光学園十ちくまプリマー新書編集部・編

中学生からの大学講義1「何のために『学ぶ』のか」

茂木健一郎「脳の上手な使い方」より)

注(※) 和仁陽：東京大学大学院法学政治学研究科准教授

中澤佑一：元プロサッカー選手

プロフェッショナル仕事の流儀：テレビ番組の名称